Luncheon seminar

第248回 鈴木流・学習環境設計10か条(その2): 教師の果たすべき役割の再検討

<u>鈴木流・学習環境設計10か条</u>の中から、<u>教師の果たすべき役割の再検討</u>をテーマとした4つを事例とともに紹介する。みなさんはどう思うだろうか?

- 2.再利用できるものをつくる(教材シェル:LO)
 - ドリルシェルの開発(詳細画面①・②・③・④)
- 4.体験を次に伝える仕組みをつくる(ランチョン)
 - <u>ランチョンセミナー</u>とその狙い(岩手県立大学時代)
- 5.学習者の文脈を想像する(ユースケース)
 - NHK高校講座Webサイトの試作: Webの構成要素 / 通信制高校生を取り巻く学習 環境 / 地理的距離でなく心理的距離で語るべし!
 - なるほどネット:<u>概要(イメージ①・②・③・④・⑤)と通信高校教員の役割(イメージ①・②</u>)
- 6.現場で組み立てる(オーダーメイドの教育)
 - 南太平洋大学(FIJI)におけるニーズ分析に基づくIDワークショップ / インタビューの様子と対象者 / ワークショップデザイン





鈴木流•学習環境設計10箇条

- ①講義と期末試験をやめる(反転授業・学習)
- ②再利用できるものをつくる(教材シェル:LO)
- ③くすぐってその気にさせる(教えない授業)
- ④体験を次に伝える仕組みをつくる(ランチョン)
- ⑤学習者の文脈を想像する(ユースケース)
- ⑥現場で組み立てる(オーダーメイドの教育)
- ⑦手ぶらでは集めない(アクティブラーニング)
- ⑧今までの要素を再定義して一つだけ付け加える
- ⑨やるべきことをやる(Practice What You Preach!)
- ⑩常に最先端の実験場たれ(率先垂範)

出典:鈴木克明(2015.8.22)「鈴木流・学習環境設計」熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会主催特別イベント 『インストラクショナル・デザインと学習環境設計』、富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター

©2015 鈴木克明







自分で学ばなければならない状況に 追い込むことによって自分で学ぶ力が育つ

自己主導学習(Self-Directed Learning) 阻害要因 教師がコントロールし 教師に依存させる構造

教師の果たすべき役割を再検討

出典:鈴木克明(2015.8.22)「鈴木流・学習環境設計」熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会主催特別イベント 『インストラクショナル・デザインと学習環境設計』、富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター

©2015 鈴木克明





Practice What you preach!

「IDの原理」を自分が手掛けた学習環境設計に応用:率先垂範

• Show me, don't just tell me! (メリルのID第一原理「例示」)

出典:鈴木克明(2015.8.22)「鈴木流・学習環境設計」熊本大学大学院教授システム学専攻同窓会主催特別イベント 『インストラクショナル・デザインと学習環境設計』、富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター

©2015 鈴木克明





動物かるた→ドリルシェル(開発)

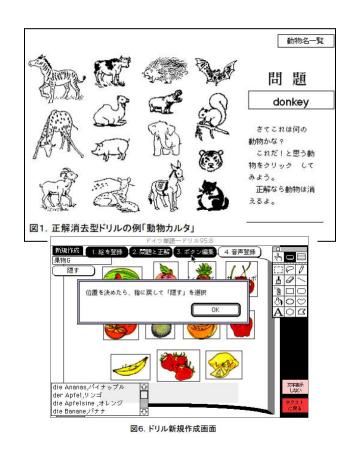




図5-1. 確認モード

図5-2. カルタモード

図5-3. 選択モード

出典: 鈴木克明(1998)「HyperCard上のドリル教材作成支援ツールの開発研究~教材設計モデルを用いた評価と使い易さの評価をもとに~」『日本教育工学会誌(日本教育工学雑誌)』22(1), 43 – 55

©2015 鈴木克明





Luncheon seminar



出典: 鈴木克明(1998)「HyperCard上のドリル教材作成支援ツールの開発研究~教材設計モデルを用いた評価と使い易さの評価をもとに~」『日本教育工学会誌(日本教育工学雑誌)』22(1), 43 – 55

©2015 鈴木克明





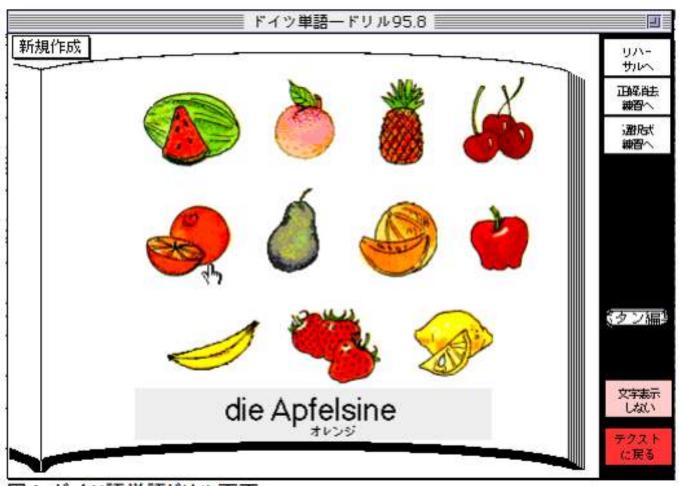


図4. ドイツ語単語ドリル画面

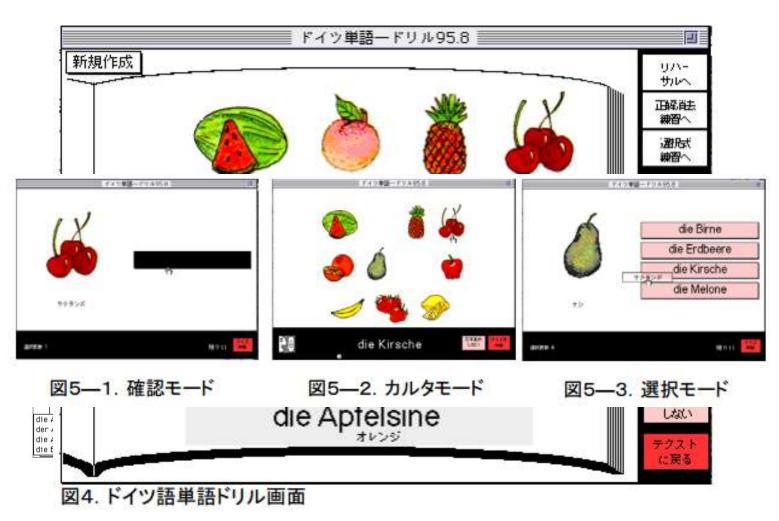
出典: 鈴木克明(1998)「HyperCard上のドリル教材作成支援ツールの開発研究~教材設計モデルを用いた評価と使い易さの評価をもとに~」『日本教育工学会誌(日本教育工学雑誌)』22(1), 43 – 55

©2015 鈴木克明





Luncheon seminar



出典:鈴木克明(1998)「HyperCard上のドリル教材作成支援ツールの開発研究~教材設計モデルを用いた評価と使い易さの評価をもとに~」 『日本教育工学会誌(日本教育工学雑誌)』22(1), 43 – 55

©2015 鈴木克明





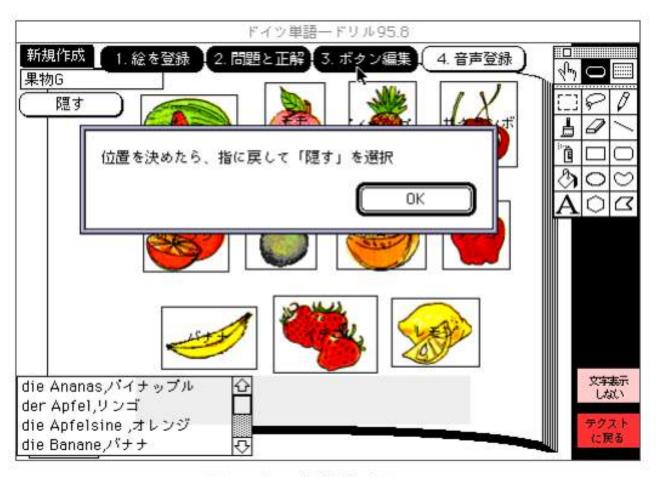


図6. ドリル新規作成画面

出典: 鈴木克明(1998)「HyperCard上のドリル教材作成支援ツールの開発研究~教材設計モデルを用いた評価と使い易さの評価をもとに~」『日本教育工学会誌(日本教育工学雑誌)』22(1), 43 – 55

©2015 鈴木克明





ランチョンセミナー開始(1999)

岩手で169回、熊大で142回+



岩手時代のランチョンURL:http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~luncheon/ 熊大ランチョンのURL:http://cvs.ield.kumamoto-u.ac.jp/wpk/





ランチョンのねらい: 岩手県立大学時代

- 3年生が発表、2年生が運営
 - 発表するネタの開発者がこっそり聴講・質問
- ランチョン担当→宴会担当→合宿担当
- ピアチュータリング(屋根瓦方式)
 - 3年生トリオが2年生トリオを教える
 - プログラミング、統計、教材設計
- 教員研修改善:上位下達方式からの脱却
 - 4体験を次に伝える仕組みをつくる

岩手時代のランチョンURL:http://www2.gsis.kumamoto-u.ac.jp/~luncheon/ 熊大ランチョンのURL:http://cvs.ield.kumamoto-u.ac.jp/wpk/

©2015 鈴木克明



NHK高校講座Webサイトの試作



出典:鈴木克明・市川尚・楢原芳仁・森山了一・弓場重貴・猪貝達弘(2004)「NHK 高校講座用 Web サイトの試作」『教育メディア研究(日本教育メディア学会誌)』11(1), 1-10

出典:鈴木克明・千葉祐介・弓場重貴・友野次郎(2007.10)「通信制高校生向けポータルサイト「なるほどネット」」『日本教育メディア学会第

14 回全国大会発表論文集』112-113

©2015 鈴木克明



NHK高校講座試作Webの構成要素

- 予習:
 - 知っておきたい予備知識
 - -番組予想クイズ
- 復習:
 - -番組の概要
 - 理解度確認問題によるチェック
 - -番組制作裏話

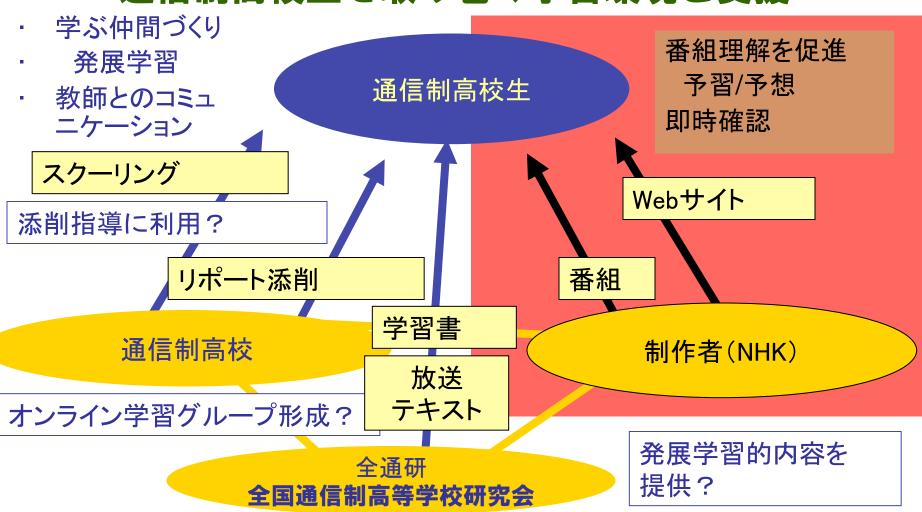
出典:鈴木克明·市川尚·楢原芳仁·森山了一·弓場重貴·猪貝達弘(2004)「NHK 高校講座用 Web サイトの試作」 『教育メディア研究(日本教育メディア学会誌)』11(1), 1-10

©2015 鈴木克明





通信制高校生を取り巻く学習環境と支援



出典:鈴木克明・市川尚・楢原芳仁・森山了一・弓場重貴・猪貝達弘(2004)「NHK 高校講座用 Web サイトの試作」 『教育メディア研究(日本教育メディア学会誌)』11(1), 1-10

©2015 鈴木克明







遠隔教育の交流距離理論(ムーア) 地理的距離でなく心理的距離で語るべし!

テスト勉強中心で自律性が育っていないのが生徒の実態。通信で の学習を通じて生徒の自律性を高めることが大切な教育目標! 高 自己調整学習・独学力 vs教師依存·時間管 対話 理・学習意欲の持続 (Dialog) 教科書+学習 説明• 書+リポート課 題+放送番組を はげまし どう組み合わせ 高 て学習をサポー ・フィード 低 トするか?! 構造(Structure)

タイムリーな働きかけで教師が身近にいる存 在になることがカギ!

教材の構成・明確な目標・慎重に 考えられた課題

出典:鈴木克明(2012.8)「遠隔教育者を支える同価値理論と交流距離理論」第 19 回教育メディア学会年次大会発表論文集 27-28

©2015 鈴木克明

バック

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室





なるほどネットの概要

- 各教科の単元ごとに分けられたリンク集とキー ワード検索機能で構成したポータルサイト
- 岩手県立大学ソフトウェア情報学部鈴木研究室(当時)が企画・開発し、全通研eラーニング研究委員会の活動として内容の充実を図った
- 現在、全通研Web サイトにおいて公開中(http://zentsuken.jp/naruhodo/)
- 2007年8月現在で、26科目で合計529件の 推薦サイトが登録され、活用されている

出典:鈴木・千葉・弓場・友野(2007)「通信制高校生向けポータルサイト『なるほどネット』」 日本教育メディア学会第23回全国大会発表論文集

©2015 鈴木克明





Luncheon seminar



なるほどネット: http://zentsuken.jp/naruhodo/

©2015 鈴木克明





Luncheon seminar



なるほどネット: http://zentsuken.jp/naruhodo/

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室







Luncheon seminar



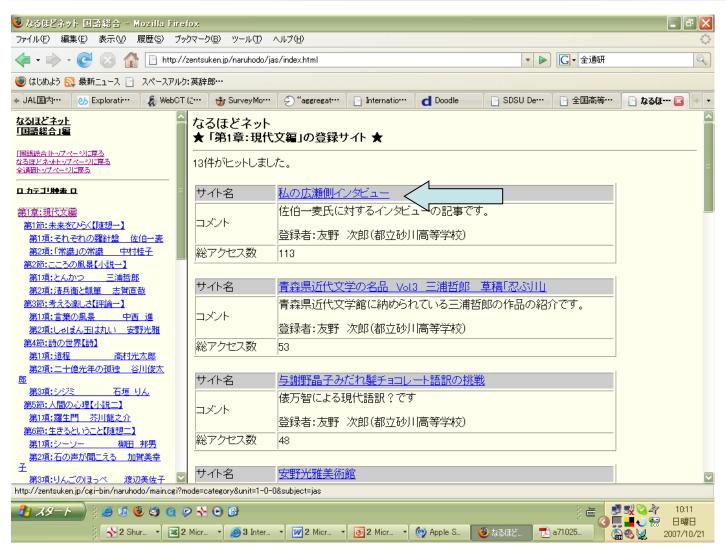
なるほどネット: http://zentsuken.jp/naruhodo/

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室





Luncheon seminar



なるほどネット: http://zentsuken.jp/naruhodo/

eラーニング推進機構eラーニング授業設計支援室 ランチョンセミナー







▼ 教授システム学専攻

Luncheon seminar



©2015 鈴木克明





通信制高校教員による登録

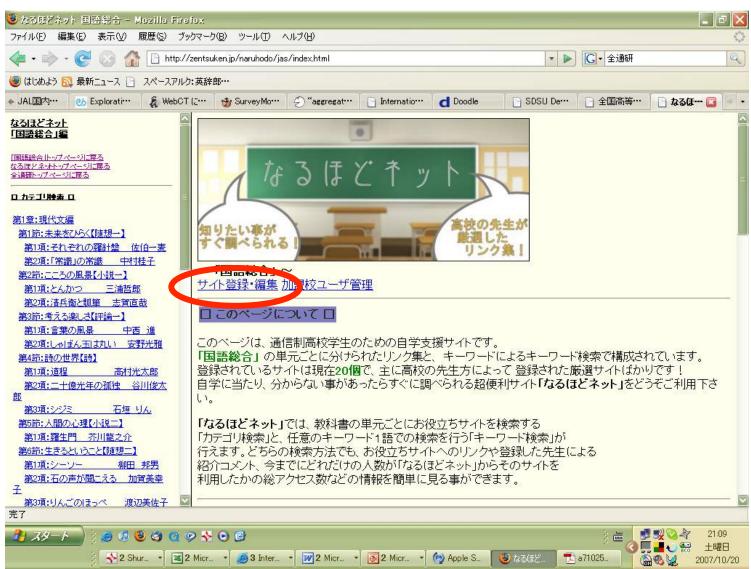
- 通信制高校生向けにふさわしい情報のリンク集は、 各教科・科目を担当している通信制高校の先生方の 推薦で用意するのが良い
- ICTに不慣れな教員でも簡単に推薦サイトの登録が できるような機能を準備
- ユーザ登録した各地の高校教員は、自分の担当科 目などで生徒に見せたい推薦サイトの名称、URL、 ならびに簡単な紹介文を入力し、教科書のどの章・節 項に関連している情報が得られるかを指定する(複 数選択可)。
- それだけで登録が完了、検索・閲覧の対象となる

出典:鈴木克明・千葉祐介・弓場重貴・友野次郎(2007.10)「通信制高校生向けポータルサイト「なるほどネット」」『日本教育メデ ィア学会第 14 回全国大会発表論文集』112-113





Luncheon seminar



©2015 鈴木克明



Luncheon seminar



©2015 鈴木克明





事例: 南太平洋大学(FIJI)における ニーズ分析に基づくIDワークショップ (JICA短期専門家派遣: 2004.10)

- 対象:通信教育をサポートするID集団20名
- 目的:教材開発の実態調査→職能向上
- 手法:聞き取り調査(インタビュー)からスタート
 - 誰が何をやっているか: 職務分担と制作過程
 - 何が実現できたらいいと思うか、何を知りたいか
 - 何が問題か、何が解決すると仕事がやりやすいか
- 聞き取り調査の結果を組み入れて研修を設計
 - 必要に応じた研修内容→有用な研修になった
- 追跡調査(半年後):記憶度・利用度高い
 - 行動変容・持続を確認、障害は依然存在する

出典:根本淳子・鈴木克明(2005)「南太平洋大学における遠隔教育実態調査に基づくIDワークショップの企画と実施」日本教育工学会研究報告集(JET05-1), 53-58







NEED ASSESSMENT

BY INTERVIEWS



出典:根本淳子・鈴木克明(2005)「南太平洋大学における遠隔教育実態調査に基づくIDワークショップの企画と実施」日本教育工学会研究報告集(JET05-1), 53-58

©2015 鈴木克明







Groups We Interviewed

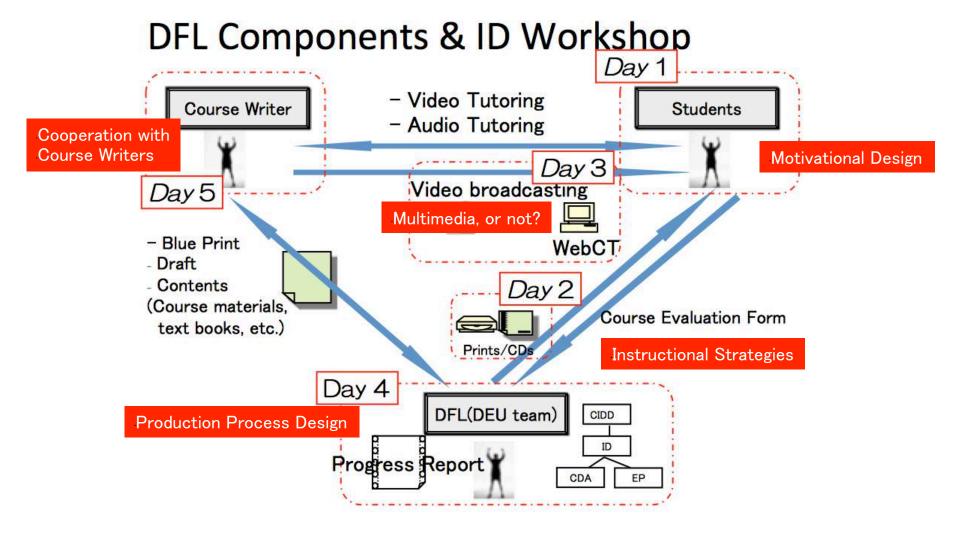
- Instructional Designers
- Educational Technologists
- Production Assistants
- Multimedia Production Assistants
- Learning Assistants
- Faculty

出典:根本淳子・鈴木克明(2005)「南太平洋大学における遠隔教育実態調査に基づくIDワークショップの企画と実施」日本教育工学会研究報告集(JET05-1), 53-58









出典:根本淳子・鈴木克明(2005)「南太平洋大学における遠隔教育実態調査に基づくIDワークショップの企画と実施」日本教育工学会研究報告集(JET05-1), 53-58



